

みえの学力向上県民運動 基本方針

平成28年8月

三重県・三重県教育委員会

<基本理念>

激動の時代にあって、次世代を担う子どもたちには、生きる喜びを感じながら、主体的に学び、自信と意欲、高い志を持って夢を実現させていく力（自立する力）とともに、グローバルな視点を持ちながら、他者との関わりの中で共に支え合い、新しい社会を創っていく力（共生する力）、すなわち、社会を生き抜いていく力が求められています。

子どもたちは、一人ひとりがかげがえのない大切な存在であり、将来、地域で輝き、世界で活躍する姿は、私たちの希望であり未来です。子どもたちの無限の可能性を最大限引き出すとともに、強みを伸ばし支えていくことは、子どもたちに関わる全ての大人の役割と責任です。子どもたちは、大人を見ており、「子どもの問題は、大人の問題」です。

教育は子どもたちの心に灯をともしることであり、大人が子どもたちを信じ、寄り添い、情熱を持って心を通わせる中で、希望の灯をともし、やる気にスイッチを入れることが大切です。また、子どもたちは、さまざまな場での学びをとおして成長していきますが、教育格差が原因となって貧困の連鎖が生まれ、子どもたちの将来が閉ざされることがないように、子どもたちを多面的にサポートする人びとのつながり（絆）が、これまで以上に求められています。

そこで三重県では、子どもたちの希望と未来を支える学力を育んでいくため、教育関係者のみならず、全ての県民が教育の当事者としての自覚を持ち、「毎日が未来への分岐点」という思いのもと、それぞれの役割を果たし、子どもたちと向き合っていきます。平成28年度からの4年間は、みえの学力向上県民運動セカンドステージとして、学校では授業改善等の取組を深め、家庭・地域では生活習慣・学習習慣・読書習慣の確立等の取組を広げ、家庭の状況により、対応が難しい問題については、地域による学習支援や居場所づくりなどにより、地域で支えるという方向性を基本としながら、県民力を結集し、全力で取り組めます。

<取組の視点>

みえの学力向上県民運動は、次の3点を取組の視点として進めます。

1. 「主体的・協働的に学び行動する意欲」を育てます

子どもたちの学力の育成にあたっては、学習指導要領等を踏まえ、「何を知っている・できるか」（個別の知識・技能）はもとより、「それをどう使うか」（思考力・判断力・表現力）、さらには「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」（主体性・多様性・協働性、学びに向かう力）といった視点を重視し、総合的に捉えていく必要があります。

また、学びの過程では、さまざまな情報を関連づけ、見通しを持って粘り強く取り組むとともに、やりっ放しにせず振り返って次につなげたり、課題の発見と解決に向けて、他者と協働しながら試行錯誤を重ね、自らの考えを広げ深めたりするなどといったプロセスが大切です。

そのため、そういった「今、求められている力」を意識し、また、キャリア教育の視点からも、子どもたちが発達段階に応じ、日々の学習と実生活や自分の将来との関係に意義を見だし、見通しと意欲を持って学ぶことができるよう、授業改善等の取組を進めます。

2. 「学びと育ちの環境づくり」を進めます

子どもたちが、学校・家庭・地域でのさまざまな学びの場をとおして、「できるようになった！」という達成感を積み重ね、自尊感情・自己肯定感を高めることができるよう、多くの大人が子どもたちに関わり、励ましながら、子どもたちの学びと育ちを支えることが大切です。

そのため、「教育の原点」である家庭教育を応援し、スマホの使用等について家庭で話し合っ規則を決めて守ったり、勉強時間を確保したりするなどの自己管理能力を育て、生活習慣・学習習慣を確立します。また、家庭の状況により、対応が難しい問題については、地域による学習支援や居場所づくりなど、地域の多様な資源を最大限生かしながら、地域で支える体制づくりを進めます。

3. 「読書をとおした学び」を進めます

読書は、知的活動（論理や思考）やコミュニケーション、感性・情緒の基盤をなす言語に関する能力を育む上で欠くことのできないものです。知識基盤社会にあつて、情報の収集・選択・活用という生涯にわたって主体的に学び続ける力を身につけるうえで重要性を増しているとともに、論理的に考え、相手の言葉を受け止め、伝え合う言葉を持つことは、豊かな心や規範意識の育成にも影響しています。

そのため、図書館を活用した授業づくりや朝の読書（朝読）はもとより、大人自身が率先して読書を行い、読んだ本について語り合うことなどとおして家庭読書（家読）^{うちどく}を促進し、子どもたちの生涯にわたる読書習慣を確立します。